

令和5年度 南あわじ市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：3名
- 2 認知症地域支援推進員の役割



- 認知症に関する正しい知識の普及（認知症サポーター・キャラバンメイトの支援）
- ケアパスの活用と普及
- 見守り・SOSネットワーク事業（模擬訓練を含む）の推進
- 認知症疾患医療センターを含む医療機関、介護サービス事業者等関係者との連携体制構築
- 認知症を支える家族の会・認知症カフェへの支援
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症（若年性含む）の当事者支援・家族支援
- 認知症チェックシートの普及

報告者氏名：小島 朋代

南あわじ市認知症施策全体図

認知症相談センターの設置
(認知症地域支援推進員の配置)

「認知症になっても安心して
暮らし続けることのできるまち」
南あわじ市



①早期発見・早期対応・予防

認知症チェックシートの普及

認知症初期集中支援チーム

検討委員会

しゃきしゃき百歳体操

②医療連携体制の構築

認知症疾患医療センター・
南あわじ市医師会との連携

認知症ケアネット
(ケアパス)の活用

③家族・本人支援

認知症を支える家族の会「スマイル」

スマイル(認知症)カフェ

若年性認知症の会 ※休止中

④地域支援体制の構築

高齢者等の
見守り・SOSネットワーク
ネットワーク連絡会

認知症サポーター養成講座
・ステップアップ講座
キャラバンメイト連絡会

標題 南あわじ市における地域共生社会・

認知症バリアフリー実現にむけた取り組み

認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

南あわじ市の現状や聞き取った声として…

- ・家族会や認知症カフェはいい会だと思いつのに参加者が増えない（家族会会員）
- ・認知症に関する相談窓口を知っているのは、21.1%（第9期策定アンケートから）
- ・ケアパスの更新作業時に「どこで配布しているんですか？」（包括職員）
- ・関係者でケアパスを知っている人は40%（在宅医療・介護連携研修会アンケートから）
- ・認知症サポーター養成講座を若い世代にも受けてほしい（キャラバン・メイト）

まずは今ある認知症施策を
市民に広く知ってもらいたい



イベントで出張認知症カフェ（スマイルカフェ）



ここでお茶を飲みながら語りました

子どもの保護者に認知症の普及啓発をしました

家族会が認知症カフェ・家族会の案内や、ケアパスを配布しました



クリスマスリースづくり

【成果】 色々な世代に認知症の普及啓発ができた。

【今後について】 家族会や認知症カフェの場に来れない人のために、出張カフェがしたい！という意見が出ました。

認知症ケアパスを更新しました

最新の情報に更新し、相談窓口に関して詳しい説明を追加

- 【成果】・今までは配布のみだったが、相談窓口や認知症の講座、会議等で説明することで認知症施策につながった。
- ・ホームページに掲載したら、離れて暮らす家族から相談があった。

【今後について】予防、早期対応の重要性や、新たに始める本人支援、チームオレンジなどを追加し、本人視点を大切にしながら、随時ケアパスを更新し周知していきます。



認知症サポーター養成講座の周知をしました

将来チームオレンジのメンバーになってほしい団体や企業に講座の案内を実施

- 【成果】・カブスカウト、市議会議員などが新たに認知症サポーターになった。
- ・趣旨を理解してくれた団体から、「受講したい」と連絡があった。
 - ・受講者から「ケーブルテレビで周知したらいい」と助言を受け、番組を制作した。
(YouTube配信も実施)

【今後について】最新の知見や、当事者の活躍の広がりなど現状に即した情報を伝え、認知症と認知症の人に関する正しい理解を深めていきます。

- 最後に・・・

令和6年度はチームオレンジを整備し、認知症になったご本人、
家族、地域住民が共に支え合い助け合いながら、安心して暮らせる
南あわじ市をめざします。

